ウクライナ経済 瀬戸際

EU危機感、支援前向き

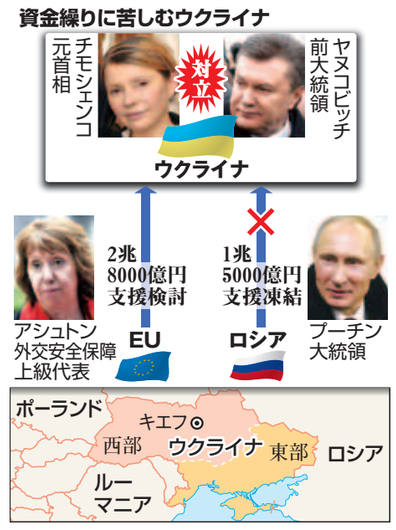
欧州か、ロシア接近か――。国の将来をめぐる論議が政権崩壊に発展したウクライナが今後直面するのは、危機に陥った経済の再建という課題だ。トゥルチノフ大統領代行は23日、「ウクライナは債務不履行の寸前」と発言。ロシアに頼れなくなった同国経済をどう支えるかは、欧州連合（EU）にとっても深刻な問題となる。

24日、キエフの独立広場で、治安部隊との衝突で死亡したデモ参加者の遺体が入ったひつぎが運ばれた＝AP

「2014～15年で350億ドル（約3兆5千億円）の支援が必要だ」。ウクライナのコロボフ臨時財務相は24日、こう訴えた。親ロシアのヤヌコビッチ政権が崩壊したことで、ロシアからの総額150億ドル（約1兆5千億円）の支援が見込めなくなったためだ。

ウクライナの政府債務（借金）は総額700億ドル（約7兆円）超で、今年中に100億ドル（約1兆円）超の返済が必要とされる。

しかし、政府の台所は火の車だ。国営ガス会社への補助金などが重荷で、毎年の政府の赤字は増える一方。赤字を埋め合わせなければいけないが、国内政局の大混乱で国の信用が落ち、投資家から新たにお金が借りにくくなっている。



さらに、主力の鉄鋼産業が新興国との競争にさらされて伸び悩み、景気も悪化。12、13年の経済成長はほぼゼロで、失業率は8％台に上る見通しだ。

ウクライナ経済が行き詰まれば、欧州経済にも悪影響を与えかねない。EUや国際通貨基金（IMF）は早速、動き出した。

EUのアシュトン外交安全保障上級代表は24日、韓国や豪州などアジア歴訪の予定を変更して、キエフに飛んだ。権力を掌握した議会幹部らと会って、支援に向けた地ならしをする意味がある。欧州委員会のレーン副委員長（経済・通貨担当）やIMFのラガルド専務理事は23日、「経済改革が条件」としながらも、相次いで経済支援に前向きな姿勢をみせた。

IMFはこれまで、国営ガス会社への補助金の削減などの経済改革を要求。EUは昨年末、条件を満たせば、国際機関と連携して7年間で200億ユーロ（約2兆8千億円）の支援の用意があると伝えたとされる。だが、ヤヌコビッチ政権がロシアにすがったため、立ち消えになった。瀬戸際の状況で、EUとIMFが頼みの綱になった。

（ブリュッセル＝野島淳）

ヤヌコビッチ氏を指名手配

行方をくらまして議会に解任されたヤヌコビッチ前大統領の出没情報が、ウクライナ南東部で相次いでいる。ロシアと結びつきが強く自らの支持者も多い地域を「落ち武者」のように逃げ回っているようだ。

アバコフ内相代行のもとに、ヤヌコビッチ氏が23日にロシア黒海艦隊基地がある南部クリミア半島セバストポリの自らの邸宅に入ったとの情報が寄せられた。ここで随行していた警備員の一部が離脱。同氏は側近と車で去り、一切の通信を絶ったという。

アバコフ氏は24日、大量殺人容疑でヤヌコビッチ氏らを指名手配したことをフェイスブックで明かした。

ヤヌコビッチ氏は21日、ヘリコプターで東部ハリコフへ。翌日、議会に解任されるとハリコフでインタビューを受け、「辞任しない」と強調。間もなく故郷のドネツクの空港からチャーター機で離陸を試みたが、国境警備隊に阻止されたことが確認されている。

（キエフ＝西村大輔）

プーチン政権 手痛い失点

ヤヌコビッチ政権が瞬く間に崩壊し、政権を支え続けてきたロシアは状況に対応できていない。

メドベージェフ首相は24日、インタファクス通信に対して、キエフで権力を掌握している勢力について「正統性に大きな疑念がある」と述べた。だが、ヤヌコビッチ氏をキエフに戻すことはすでに不可能だ。

ロシアが打つ手を決めかねている最大の理由は、ヤヌコビッチ政権を支える方針を、プーチン氏自身が決めたからだ。

昨年12月、反政権デモが荒れるウクライナに対して150億ドル（約1兆5千億円）の金融支援を表明し、天然ガスを当面の間、市場価格の約3分の2で輸出するという破格の支援策を打ち出したのも、政府内の異論を押し切ったプーチン氏の決断だった。

金融支援が焦げ付く懸念に対し、プーチン氏は「ウクライナの格付けは低いが、ファンダメンタルな競争面の強みを信じている」と説明していた。しかし、ウクライナのトゥルチノフ大統領代行による「債務不履行寸前」発言で、見通しの甘さが露呈してしまった。

約束した150億ドルのうち、30億ドルはすでに融資されている。これが返済不能となれば、プーチン氏への国民の不満が高まることは避けられない。ロシアのシルアノフ財務相は23日、第2弾となるはずだった20億ドルは当面凍結して事態の推移を見守る考えを示した。

ロシアは、旧ソ連の国々に広げようとしている「関税同盟」でもウクライナに強く加盟を働きかけた。しかし当面こうした路線は断念せざるを得なくなった。

ヤヌコビッチ政権の崩壊は、ロシア外交にとって大きな失点。プーチン氏はソチ五輪閉会後、直ちに態勢の立て直しを迫られている。

（ソチ＝駒木明義）

メキシコ「麻薬王」を拘束

治安改善見通し立たず

㊤メキシコ市で22日、連行されるホアキン・グスマン容疑者＝AP

㊦麻薬組織が根を張る地域では、路線バスにも弾痕が残る＝ネツァワルコヨトル、藤えりか撮影

麻薬をめぐる犯罪や抗争が相次ぐメキシコで、最大級の麻薬組織を束ねる最高幹部が当局に拘束された。ペニャニエト政権は成果を強調するが、多くの組織は警察や地元政府と癒着してなお足元の治安を脅かす。今回の拘束に伴う混乱で、暴力がさらに広がる懸念も出ている。

通りがかった路線バスの窓に大きな弾痕があった。一帯の商店や家屋は、入り口や窓が鉄格子で覆われていた。強盗を防ぐためだ。

「4ブロック先の店で先日、銃の撃ち合いがあった。後には死体が横たわっていた。最近ますます犯罪が増えて、怖い」。乳児を抱え、妻と買い物に出ていた靴店勤務のカルロス・チャベスさん(21)は辺りをはばかるように言った。

「危ないから早く去った方がいい。まもなく銃声を聞くことになるよ」。路上で出会ったホテル勤務のダニエル・エレラさん(30)が心配そうに言った。

首都メキシコ市のわずか20キロ前後東、メキシコ州ネツァワルコヨトル。麻薬組織ファミリア・ミチョアカーナが勢力を張る地域だ。

「記事の文言を削除するか、ここに残るか選べ」。ミチョアカーナが権勢を振るう地域に取材に行ったある新聞記者は、記事がネットに載るや、銃などを持った武装集団に滞在先のホテルで囲まれた。「やむなく問題部分を削り、記者を逃がした」。彼らの上司である50歳代の男性エディターは取材に打ち明けた。

ミチョアカーナの最高幹部は2010年、当局によって殺害されたとされる。それでも、殺害はなかったとの臆測も飛ぶほど拡大を続け、犯罪も増えている。

米国で麻薬がはびこるにつれ、隣国メキシコは密輸の中継地として多くの組織が暗躍する。抗争も激しくなり、運び屋にされた一般人が殺されたりする例が相次ぎ、犠牲者は06年以降で推定計7万人以上に上る。

軍を投入する派手な制圧作戦を展開したカルデロン前政権と違い、12年に発足したペニャニエト政権は主に経済発展などを重視。一方、組織壊滅に向けて米当局と連携し、昨年夏には麻薬組織セタスの最高幹部を拘束した。「麻薬組織関連の殺人は約半年で約2割減った」。ペニャニエト氏は昨夏、胸をはった。

だが、警察や地元政府が組織と癒着を続けているとされ、「治安は一部でますますひどくなっている」とメキシコの記者は嘆く。最近は地域の自警団も登場しているが、銃で武装し、かえって混乱に拍車がかかっているとの指摘もある。

当局は今回、メキシコ経由で米国に密輸される麻薬の約4分の1を扱うとされるシナロア・カルテルの最高幹部、ホアキン・グスマン容疑者(56)を今月22日に拘束した。米誌フォーブスによると、シナロアの年間売上高は推定30億ドル（約3千億円）以上。グスマン容疑者の資産は推定10億ドルとされる。

米当局と共同作戦を進めていたメキシコ海兵隊がグスマン容疑者の拘束にこぎ着けた。だが、これが治安の改善につながるか、見通しは立たない。米誌タイムは「組織の掌握に手間取り、対立組織に攻め込まれてさらに暴力が広がる懸念がある」と伝えた。（ネツァワルコヨトル＝藤えりか）

暫定首相が辞任発表

エジプト 強まる政府批判

エジプトのベブラウィ暫定首相は24日、国営テレビを通じて辞任を発表した。理由は明らかにしなかったが、公共バスや道路清掃などの公共労働者のストライキが頻発し、政権運営に行き詰まったと見られる。

ベブラウィ暫定首相は、昨年7月の軍によるクーデターでイスラム系のムルシ前大統領が排除された後に就任したマンスール暫定大統領に任命されていた。

ベブラウィ氏は辞任の会見で「内閣は6、7カ月間、困難な責任を担い、多くの分野で成功を収めたが全てで成功することは不可能だ」と指摘。さらに「いまエジプトは困難な状況にあり、誰もが自分たちの私的な利益を要求する時ではない」と訴えた。

エジプトでは23日から公共バスの運転手が賃上げや待遇改善を求めて全国でストに入り、24日から道路清掃労働者のストが始まり、政府批判が強まっていた。

（カイロ＝川上泰徳）

北朝鮮の口蹄疫

韓国が支援提案

米韓演習 緊張緩和か

韓国政府は24日、北朝鮮で家畜伝染病の口蹄疫が発生したのを受け、拡散を防ぐ消毒液などを支援すると、板門店を通じて北朝鮮に伝えた。韓国では同日、北朝鮮が中止を求める米韓合同軍事演習が予定通り始まったが、3年ぶりの南北離散家族の再会で生じた融和ムードを維持し、「人道支援」で緊張緩和を図るねらいがあるとみられる。

21日付の朝鮮中央通信によれば、北朝鮮では平壌の養豚場で1月8日に口蹄疫が発生し、約3200余頭が感染。拡散が続いているという。3年前の北朝鮮での口蹄疫の発生時は、軍事境界線を越えて韓国にも広がった。北朝鮮の要請がない中での積極的な支援の提案は、韓国への拡散を未然に防ぐためでもある。

一方、北朝鮮のウェブサイト「わが民族同士」は24日、米韓合同演習について「離散家族の再会で全同胞が喜ぶ中での実施は、米国の悪質な下心を示すものだ」と、米国だけを非難した。

（ソウル）

地球24時

■釣り橋落ち8人死亡

ベトナム北部ライチャウ省で24日、釣り橋が崩れて葬列の人々が落下し、少なくとも8人が死亡、33人がけがをした。国営メディアが報じた。

報道や地元行政当局の関係者によると、釣り橋は同省タム・ズオン地区の岩場の渓谷にかかり、長さ約54メートル。同日午前8時半ごろ、葬儀でひつぎを墓地へ運んでいた親族ら数十人の列が釣り橋を15メートルほど渡ったところで、橋を支えていたロープが切れた。大半がひつぎとともに約9メートル下の小川や岩場に落下し、8人の死亡が確認された。病院に運ばれた33人のうち、10人は重体という。

（マニラ）

こたえ シリコン

©Fujiko-Pro

シリコンは半導体の原料だ。コンピューターに使われている集積回路に欠かせない。だから、シリコンバレー（谷）にはIT企業も集まっているよ。

1464